

特集 生成AIを活用した授業等の紹介と今後の授業の在り方を考える

生成AIの利活用に留意することが望まれる観点の整理

公益社団法人 私立大学情報教育協会

生成AIの利活用について、本協会においてこれまで議論した観点を、以下のように整理しましたので、紹介します。

生成AIの出現により、学びの質向上にどのような変革が期待されるか

- ① 新しいアイデアや発想などを生み出す学びに、生成AIが回答した生成物(情報の収集、アイデア出し、論点・課題の洗い出し、翻訳やプログラミング、デザイン・曲など)を材料として用い、チームで意見を話し合い議論することを通じて、本質を捉える学びが鍛えられることから、思考力・判断力・表現力等の向上に寄与することが期待されます。
- ② これからの学びでは答えの適否に加えて、思考・判断の過程をエビデンスベースでどのように行ったのかが大事になります。例えば、生成AIを用いても、思考・判断のプロセスを明確化し、結論に至った経緯を納得・説得できることが評価されることで、社会に通用する発信力の成果が期待されます。
- ③ これまでの知識の正確性や量などを判定する学修評価に加えて、生成AIを用いた思考プロセスの適切性を判定する評価を併用することにより、知識伝達型教育から思考プロセス重視型教育への転換が加速化し、考える力を基軸とした学修評価の普及・推進が期待されます。

学びで生成AIを使いこなすには、どのような点に注意すればよいか

- ① 生成AIは、人間のように言葉の意味を理解して回答しているのではなく、大量のデータを処理して統計的に単語を繋ぎ合せているため、誤り、偽り、偏り等の回答が多く見受けられます。また、回答にどのような情報が使われているのか、わからない仕組みになっています。そのことを理解した上で、様々なツールを用いて回答内容の信憑性、回答の根拠を点検・確認するなどの習慣を身に付けておく必要があります。
- ② 生成AIから期待する回答を引き出すには、質問・指示(プロンプト)の仕方を変えて繰り返し尋ねるなど、学びの中でプロンプトの経験を積むことが効果的です。
- ③ 生成AIの回答を鵜呑みにする「依存性」から脱却するために、学生同士で生成された内容の真偽やアイデアなどの適切性を議論する習慣を学びに定着させ、常に批判的視点で利活用を判断できるようにすることが望めます。
- ④ 生成AIが得意とすることを学ぶだけでなく、生成AIが苦手とする感性や倫理観、創造力、コミュニケーション力などを育てる訓練を、社会との実践体験による学びなどを通じて、今まで以上に強化する必要があります。
- ⑤ 使いこなすことを支援する教育や研究の在り方の開発が重要になります。例えば、現在の生成AIは数年前までの過去の情報を扱っているため、情報の最新性に限界があります。SNSに個人がアップしている動画情報(YouTubeなど)を生成AIと連結して使えば、広く世界から情報を収集して自分のオリジナルな動画情報の支援に使うことができます。
- ⑥ 生成AIへの入力で機密情報や個人情報流出する可能性があるため、安易な入力を避ける習慣を身に付ける必要があります。また、生成AIの学習に個人情報が利用されないオプトアウト設定の有無を確認することも大事です。しかし、現在のところ、この仕組みが正常に作動して、個人情報が使用されていないことを第三者が判定する方法は見当たりません。
- ⑦ 生成AIの回答に手を加えて自分の著作物として公表する場合は、他者の著作権を侵害していないかどうか、点検の習慣を身に付けておく必要があります。例えば、生成AIに「〇〇と似た」などの指示をして画像を出力し、それを自分の著作物として公表するなどの場合には、類似性に加えて依拠性があることから、著作権の同一性保持権侵害が考えられますので注意が必要です。また、生成AIを使用するときは、常に使用した文章や画像にAIを使用した内容を表示するなど、著作権に対する積極的な配慮が必要になります。
- ⑧ 社会に出て生成AIを使うことになりますので、ビジネスベースでの著作権規制の動向、例えば、EUのAIの包括規制法などの概要についても認識しておくことが望めます。生成AIの利用環境は、国内外で時々刻々と変化していますので、常に関心を持つ習慣が必要になります。